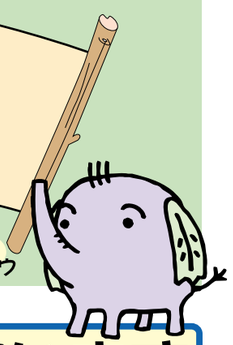
ごみ情報誌　発行・編集　あきる野ごみ会議

へらすぞう

第３号　2005年9月



あきる野市のごみ（可燃・不燃）が増え始めています

昨年４月からはじまった、ごみの戸別収集・有料化により、ごみ量（可燃・不燃）が約２割減少しましたが、今年５月以降、また増え始めました。

ごみ量が増えると、その処分やリサイクルなどに多額の費用がかかり、最終処分場も早く満杯になります。環境への負担は結局私たち人間にかえってきます。

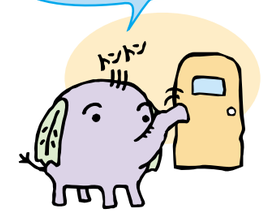
どうしたら、ごみが減るのでしょうか。ごみの戸別収集・有料化だけでは、ごみは減りません。ごみが出る商品を作る企業やそれを売る店が悪いのでしょうか。そういう商品を希望し、買う消費者が悪いのでしょうか。

みんなでアイデアを出し合いましょう。市民も事業者も行政も、みんなで力を出し合えば、きっと解決していくはずです。『あきる野方式』をさがしてみませんか。

私は楽しく こんな工夫をしています！

- 食材の買い物は、空腹時を避けています。
- 食べる分だけ　料理を作り、お残しは許しません。
- 安いからと買い過ぎると後で泣きをみるので、必要なものしか買いません。
- レジ袋はごみになるから、マイバッグです。いつも持ち歩いています。
- できるだけバラ売りのものを買います。
- トレーや包装類はお店に置いてきます。タッパーを持っていくと無敵です。
- 家電製品等の梱包財（発砲スチロールやダンボール）は、断ります。
- 自分でお茶を作って、マイボトルを携帯しています。
- エコクッキングで余すところなく料理します。
- 生ごみはダンボール方式でお金をかけずに堆肥化しています。主人の役目です。
- 生ごみは堆肥化、紙は資源で、燃やせるごみはミニ袋で充分。

ごめんください　五日市小学校



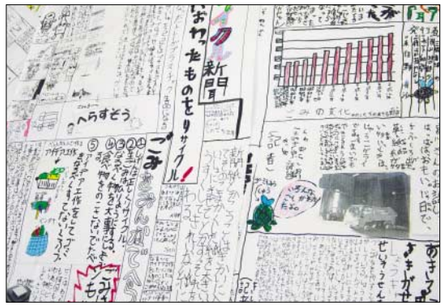
五日市小学校で５月14日、４年生全員を対象に、地域のごみ収集に携わっている「松村ダスト」職員で同校の保護者でもある、来住野さん、森屋さんのお話と収集車のデモンストレーションの授業がおこなわれました。３・４年生用社会科の副読本として、市内各校の先生方により編纂された「私たちのあきる野市」を使っての「ごみ」の学習です。

お二人は「ごみの戸別収集」になってからの収集作業の工夫や苦労話をされました。最短の収集ルートを検討したり、ルール違反の袋に理由を示したシールを貼ったり、夏の炎天下で走り回ってのごみ袋収集は大変な作業です。子供たちからは、「『燃やせるごみ』と『燃やせないごみ』の袋の大きさはなぜ違うの？」「資源ごみのリサイクル先は？」などの質問がありました。

副読本の執筆者の一人である４年生担任の羽原テル先生にお聞きすると「ごみの始末と再利用」という単元で４月から12時間かけ、学校や家庭でのごみを調べるなど身近なところから、だんだんと範囲を広げて学んでいったということです。

当日２時間の授業を受け、後日清掃センター見学（１時間）と最後のまとめとして壁新聞作り（２時間）－下図－が行われました。

授業の際ワークシートには、たくさんの感想が書かれていました。初めは関心の少なかった子供たちですが、順を追った環境を考えさせる授業でしっかりと自分の考えを持てるようになっていました。（MT）



西ケ谷戸町内会＆子供会

昨年度二つの団体が協力し、資源集団回収実績が良好な団体に選ばれた、西ケ谷戸町内会＆子供会を取材しました。

６月17日資源回収当日、参加者は町内会役員８名、組長11名、子供会役員５名、子供14名総勢38名。午前８時から次々と町内会の方々が軽トラで搬入。主に大人が仕分けしながら荷を降ろし、子供たちはカンの選別をするという役割分担になっていました。

西ケ谷戸子供会会長　平岡かおりさん

お母さんたちで行っていた資源回収が、ごみの戸別収集を機に町内会と共催になり回数は年に３回から６回と増えましたが、作業はずいぶん軽減されました。今では子供たちは前日の呼びかけとカンの分別だけなので、もう少し作業内容を考えても良いのかなと思っています。

回収業者の秋川紙業さんは「以前に比べて人手もあり、手際も良く回収量が２倍近く増えています」と評価。スーパー「いなげや」さんの協力でスペースにも恵まれ、大人も子供も一緒になって汗をかいている様子に、地域の温かさが伝わってきました。（YM）

西ケ谷戸町内会長　末吉征司さん

以前廃棄物減量等推進員をしていた頃、西秋川衛生組合の炉の処理能力のことなどを知り、大変だと思っていました。市の方からごみの有料化にあたって集団回収の話があり、町内会は世帯数の減少など財政的に厳しい状況でしたので、以前から集団回収に取り組んでいた子供会さんと一緒にと呼びかけました。地域の方々の協力で昨年度約40万円の収入があり、備品庫の改築費にも目途が立ちましたし、大切なコミュニケーションの機会にもなっています。

編・集・後・記

家畜の糞尿を原料に液体肥料や燃料に換えるバイオガス技術、牛を２頭飼育すれば６人家族の調理に必要なガスと40アールの野菜作付けに必要な肥料を得ることができるという。農地の日照り防止に太陽エネルギーで発電した電気で地下水を汲み上げて撒く。自然エネルギーを農業や生活に実際に活用している埼玉県小川町の有機農業を見学した。日常私たちが気軽にごみにしているものの中に、多くの価値を生むものが残されていることを改めて認識した。例えばあきる野市の給食センターを見学した折、さまざまな事情はあるとは思うが約２割の残飯が返されていた。これもごみ、私たちに課された課題はまだ多い。（KO）

発行・編集　あきる野ごみ会議　　問い合わせ先　あきる野市　環境課内　TEL　558－1842

買い物はマイバッグ持参でレジ袋はおことわり（ごみ会議レジ袋削減運動キャンペーン）

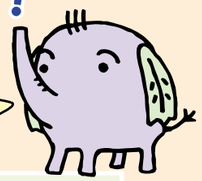
あきる野ごみ会議では、ノーレジ袋・マイバッグ運動を推進しています。

―もっと減らそう！　まだまだ減らせる！！―

ひと手間かけて資源にしよう！

燃やせるごみの中に
紙類が４０％も
入っているんだって

もったいない
資源になるのに



ごみの戸別収集・有料化後のリバウンドは、どこの行政でも頭を悩ませています。もっとごみを減らす方法はないものか？と考えていると、西秋川衛生組合に持ち込まれる燃やせるごみのうち、紙類 40 %という数字に目がとまりました。なんと大きな数字でしょう。「これだ！紙を何とかすれば、まだまだ減らせるぞ！」

これらの紙類は、分別して出せば資源になるのに、新聞紙、雑誌類、ダンボール、紙パックも生ごみと一緒にごちゃごちゃに入っているとのこと。本当にもったいないことです。

紙は下記の「資源にならない紙類」と、使って汚れたティッシュペーパーなど以外は、すべて資源となる「資源の優等生」です。まず、分別できるものは分別し、雑紙を含む雑誌類は、ひと手間かけて、資源に回しましょう。

市民一人一人のひと手間で○○%のごみを減らすことができるでしょうか？

資源になる紙類 雑誌類	ひと手間
雑誌 マンガ本 カタログ本 本 事務用紙 ボール紙 菓子箱 画用紙（クレヨン可） 半紙（墨可）	 十字に縛る。 ちらばらないように。
ティッシュペーパーの箱	ビニールをはがす。
カレンダー	金属を取り除く。
ホッチキスのついたもの	できるだけホッチキスは取る。 取れないものでも可。
紙芯 （トイレットペーパー、ラップ、アルミホイル）	つぶれるものはつぶして、 しっかり縛る。
窓付き封筒	ビニール部分をはがす。
宛名つき封筒	個人情報保護のため、マジックで消す。宛名を切り取る。
レシート（感熱紙を除く） メモ類等、紙片	ちらばらないように封筒に入れ、雑誌にはさむ。

資源にならない紙類（燃やせるごみとして出す）	理由・出し方　他
濡れているもの	紙のせんいが劣化するため、雨の日には出さないで！
汚れているもの	保管衛生上無理。
感圧紙（字を書くと下に写る） 感熱紙（ファックス・ワープロ用紙・つるつるのレシート） カーボン紙（裏が黒い）	熱や圧力で黒くなる紙は、製紙段階で黒い点々が出る。
紙の表面に加工しているもの （ロウ加工紙・油紙・金銀加工紙・アルミ加工紙・プラスチック樹脂加工紙など）	加工が一部分ならばその部分を取り除き、「雑誌類」として出す。
写真	
紙コップ・紙皿	コーティングしてあるため。
ガムテープ、セロテープ及び紙テープでくるんだもの	収集後テープをはがす作業がたいへん。
点字用紙	あまり出ないと思うが、特殊な用紙のため、点字用紙が数枚入るだけで、全体が資源とならなくなるため、絶対入れないで！！

新聞紙　新聞販売店や集団回収に出そう！

ダンボール　どんなに薄くても
紙の断面が ∧∧∧∧∧∧ の状態であれば
ダンボールです。

紙パック　内側が銀色のものは出さないでください。

西秋川衛生組合では、「燃やさなくていいものは燃やさないで、資源化率を高めていくこと」を方針にしています。まだまだ、ごみは減らせる余地があります。私たちも手間を惜しまず、知恵を出し合い、小さな実行を重ねていくのが大切だと思います。　（MO）

西秋川衛生組合の紙類の選別・保管場所
※屋外施設（屋根つき）のため、ちらばらないようにしっかり縛って出すようにしてください。

～循環型社会で豊かな地域づくりへ～

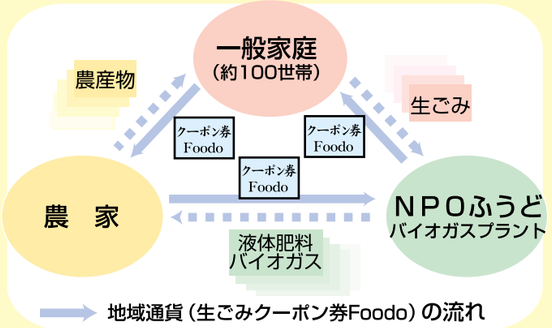
地域通貨とバイオガス　―埼玉県小川町のみなさんの取り組み―

生ごみを利用し、合成化学肥料・農薬を使用しない有機農業の取り組みで、全国的に注目されている小川町での取り組みを見学しました。

多量の水分を含む生ごみを重油を使い焼却している現在のごみ事情に対し、生ごみをごみでなく資源として地域づくりに利用しているのが小川町“ＮＰＯふうど”です。手作りの設備（建設費約165 万円）でバイオガスと液体肥料を作る「生ごみ資源化実証実験」を4年前から行っています。この事業の参加戸数は約100 戸で、生ごみを分別して集積所へ出し、バイオガスプラントへの運搬は行政が担当しています。

バイオガスプラント

発生したバイオガスは農家の台所等の燃料として使用され、液体肥料は完熟肥料として農家から引っ張りだこです。生ごみを出してくれた人たちにはお礼として『生ごみクーポン券』が農家から発行され、地元で生産される農産物や加工品と交換できる地域通貨の仕組みができています。

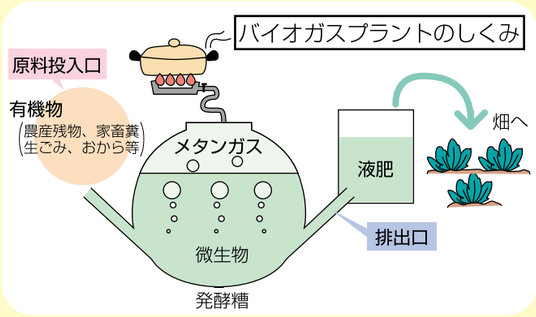


安心安全な食べ物を地元で作って地元で食べる。住民・農家・行政・ＮＰＯが協力して循環型の豊かな地域づくりをしている小川町、私たちが目指すべきモデルを目の当たりにした一日でした。　（MY）

バイオガスプラント日本一の町

小川町では農産残物や家畜糞、おからなどの「有機物」から燃料のガスと有機質肥料（液肥）を作るバイオガス技術を取り入れています。バイオガスプラントは大小８基あり、数としては日本一。得られるメタンガスで調理の燃料はもちろん、照明や発電などエネルギー源として農家で利用されています。

コストも比較的かからず、微生物の力を利用した循環型エネルギーです。　（YM）

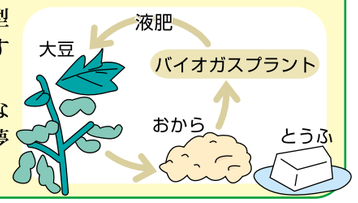


地産地消のホープ　小川産豆腐

小川町のあるお豆腐屋さんは、地元のおいしい大豆に目をつけ、きれいな湧水を使いお豆腐を作りました。それが話題となり、今では遠方からたくさんの人が訪れ、商売繁盛しているようです。

おいしさの秘密は、小川町のお百姓さんたちが守りつづけた「小川青山在来」という地大豆を農薬や化学肥料を使わずに育て、あわせて天然の地下水と最高級天然にがりが使われているからです。そして製造過程で出るおからはバイオガスプラントに利用され、有機肥料となって再び大豆を育てるのに使われます。地域で作られた安心安全な農産物が地域で製品化され、それが地域で消費され（地産地消）、さらには特産となり、小川町の顔のひとつとなっています。しかも廃棄物がゼロで永続的な循環型のお店であることがすばらしいと思いました。

あきる野でもこんなことがやれればと、夢みています。　（YM）



社員食堂の生ごみを堆肥化している富士通

武蔵引田駅近くにある「富士通あきる野テクノロジセンター」は富士通の半導体部門の本社的機能を持つところで、ＡＫＩＲＵＮＯの名前はこの分野では世界的に有名ということです。

2,200 人の社員の食事をまかなう食堂から出る生ごみは１日120 kg。それを敷地内にあるビオボックス（堆肥化処理機）に入れると、24 時間後には４分の１の量になります。高品質の有機肥料「のびのびグリーン・あきる野」の出来上がりです。年間約９トンでき、申し込めば 20 kgまで無料でいただけるそうですが、希望者が多く今では約半年待ちとのこと。

今年で５回目となった10 月 15 日開催の「あきる野フェスタ」では、先着 1,500 名にこの肥料が１kg 無料でプレゼントされますので、ぜひ行ってみてください。　（HK）

ビオボックス（堆肥化処理機）